北

踊<sup>\*</sup> 呑<sup>の</sup> れ よ よ 集さ へや ・笑ひなると

蛮歌を肴に飲酒盃空け干さば 月での 随に盈ちゆく淡燈

娑婆の夢 朝そら朧にて心と戯る 深宵まで痴れて泥のよに伏す

根無草をおいる。 畢 竟浮世は 響む晩鐘 花零る沙羅双樹とは、よいのねはなどは、 しゃらそうじゅなべて蓬莱は 揺蕩う蜃気楼 () 泡沫 よ 酌みて禊が む

> 廻り流れて ふる星霜 三界流転に ヤ杯交わせし に 逢は 道途別たれど 息がき 熊ぞ棲む つく隙もなし むとぞ

> > 加納 央都 君 作 曲

吉

野萌

君

作

歌